

# 静岡・山<sup>やま</sup>の神遺跡<sup>かみ</sup>

1 所在地 静岡県浜松市和田町

2 調査期間 第五次調査 二〇〇〇年(平12) 一月～二月

3 発掘機関 (財)浜松市文化協会・浜松市博物館

4 調査担当者 鈴木一有

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代後期、一二世紀～一三世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

山の神遺跡は弥生時代後期と一二世紀～一三世紀頃を中心とした集落遺跡である。第一次調査において「長田」と記された墨書土器



(磐田)

が出土し、蒲御厨に属する長田村の範囲内にあたることとが推定されている。第五次調査では、遺跡の北東部に相当する約二七〇㎡が対象となった。

過去の調査と同様、弥生時代の遺構が多数確認できたが、破壊を免れた中世の

遺構も僅かながら確認できた。中世にかかわる検出遺構は、掘立柱建物と井戸である。

木簡は一点、井戸から出土した。木簡が出土した井戸(Seo-1)は井戸枠を持たない、いわゆる素掘りの形態であり、直径約二m、深さ七〇cmを測る。井戸から同時代と考えられる土器が出土せず、明確に木簡の年代を決定する材料がない。周辺において検出される中世の井戸と形態や埋土が似ることから、木簡の年代を一二世紀～一三世紀頃と推定している。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ・「以今明日採<sup>〔物カ〕</sup>」  
 ・「<sup>〔今明日カ〕</sup>物カ」  
 ・「以<sup>〔物カ〕</sup>」

184×28×8 032

木簡は上端を山形に整え、下端に切り込みが施される。表裏に墨書が認められる。表裏とも同じ文字が記されていると考えられるが、下端の一文字に疑問が残る。最後の二文字が「物忌」を示す可能性があるが、確定的ではない。

(鈴木一有)



(表)